

計 画	2022 年度		2023 年度																															
	状況〔1 年目〕	課 題	状況〔2 年目〕	課 題																														
○高等学校・中学校 ① 建学の精神、使命・目的に基づく教育 ② 学習指導要領に沿った教育 ③ 教科・科目の目標や内容に応じた教育と達成状況等の評価 ④ 教育環境の整備	○教科「宗教」で聖書について歴史や内容の学習をした。ミッションンマンズ、ミッションウィークをはじめとする宗教教育により、聖書に基づく人間観、社会観、人生観、生命観、倫理観を学習した。 ○「なりたい私」になるための教育と指導体制として、教科横断型授業を実施し統合学力教育を実施した。 ○学習支援サービス専門企業のキャリア教育プログラムを導入し、生徒自身が考え方を組み立て表現する力の醸成に努めた。 ○2023 年度 Wi-Fi 導入を計画し、新たな学習形態を計画している。	○人権教育と平和教育のより密な連動性を持つ対応が課題 ○全教員への「基督教教育オリエンテーション」は学事の中でも定着してきた。今後、本校の教員が実践する人間教育の礎となることを期待したい。 ○「なりたい私」を実現するために各学年の教育活動を連動させ、時代や制度の変化に対応するために、「社会のニーズ」や「仕事」、「大学」の特徴、「学部・学科・コース」の教育活動を理解し、生徒にとって有益なアドバイスを提供する。 ○Wi-Fi 環境が整ってからの活用と具体的な活用法の提示（「生徒タブレット」の導入と活用）	を受審。大学及び短期大学部とも適合の評価を得た。 ○短期大学部保育科は 2025 年度以降の学生募集を停止することを決定した。 ・短期大学部は 2020 年度に入学定員を 100 名に変更したが 18 歳人口の減少や女子の 4 年制大学志向の高まりなど社会状況の変化による影響は大きく、志願者・入学者は減少を続けた。 ・2024 年度に学生確保には、一層の戦略的高校訪問、入学金の半額減免、特待生枠拡大、教育訓練制度や長期高度人材育成コースによる社会人の積極的募集、日本語能力緩和による外国人の募集など新たな工夫を行ったが、2024 年 4 月の在籍者数は 90 名で収容定員の 5 割を下回ることとなり、今後も志願者数・入学者数の大幅な回復は見込めないと判断せざるを得なかった。 高等学校・中学校 ○教科「宗教」で聖書について歴史や内容の学習をした。宗教教育により、聖書に基づく人間観、社会観、人生観、生命観、倫理観を学習した。 ○「なりたい私」になるための教育と指導体制として、教科横断型授業を実施し統合学力教育を実施した。 ○学習支援サービス専門企業のキャリア教育プログラムを導入し、生徒自身が考え方を組み立て表現する力の醸成に努めた。 ○Wi-Fi 工事を行い、タブレットを活用した新たな学習形態を調査・研究した。 ○中学校の生徒数減に伴うクラス数の削減を行った。学年 1 クラスの状況での生徒活動の活性化を工夫した。 ○高校卒業者 66 名は全員希望する進路についた。（卒業生の合格状況(述べ) <table><tr><td></td><td>指定校</td><td>公募他</td><td>総合等</td><td>一般</td><td>計</td></tr><tr><td>国公</td><td>-</td><td>3</td><td>0</td><td>9</td><td>12</td></tr><tr><td>私立</td><td>23</td><td>4</td><td>11</td><td>36</td><td>74</td></tr><tr><td>短大</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>専門</td><td>2</td><td>0</td><td>6</td><td>1</td><td>9</td></tr></table> ※西南女学院大学の合格者数 16 名		指定校	公募他	総合等	一般	計	国公	-	3	0	9	12	私立	23	4	11	36	74	短大	0	0	1	0	1	専門	2	0	6	1	9	○短期大学部保育科が担ってきた保育者養成は、大学保健福祉学部福祉学科に発達支援、障害児支援、心理支援の課程を充実させた新コースが引き継ぐ。 ○福祉学科子ども家庭福祉コースでの幼稚園教諭免許状の取得に向けた作業を開始する。 ○「基督教教育オリエンテーション」も定着し、本校の教員が実践する人間教育の礎も次のステップを検討しなければならない。 ○「なりたい私」を実現するために各学年の教育活動を連動させ、「社会のニーズ」や「仕事」、「大学」の特徴、「学部・学科・コース」の教育活動を理解し、生徒にとって有益なアドバイスを提供する。 ○継続して、生徒タブレットの活用について研鑽し、生徒にとって密度の濃い使用方法の提示を行う。
	指定校	公募他	総合等	一般	計																													
国公	-	3	0	9	12																													
私立	23	4	11	36	74																													
短大	0	0	1	0	1																													
専門	2	0	6	1	9																													

計 画	2022 年度		2023 年度																					
	状 況〔1 年目〕	課 題	状 況〔2 年目〕	課 題																				
○幼稚園 ① 建学の精神、使命・目的に基づく子どもたちの育成 ② 幼稚園教育要領に基づく教育 ③ 短期大学部保育科の研究成果を活かした保育の実践 ④ 効果的な保育環境の構築	○「神と人ともに愛される子どもの育成」を旨とした保育を行った。 ○「満3歳児」「3歳児」「4歳児」「5歳児」それぞれの年齢に応じた生活と遊びの目標を設定した保育を行った。また未就園児の遊び教室も開催し好評を博した。 ○年に3度の個人懇談を行い、保護者のご家族との信頼関係を築き、園児を中心に分かち合いの幼児教育を心がけた。 ○老朽化した遊具の更新を計画した。	○園生活の要としての礼拝の時間が子どもの生活からかけ離れたものとならないようにする。 ○身体と心を育てる手作りの給食を継続する。 ○子育て支援の充実を図るため、短期大学部保育科の「えほんの部屋」の本の貸し出し、「おはなし会」への参加、観劇等々など、今まで以上に連携を促進し、幼児教育の質的向上に努める。	幼稚園 ○毎日の礼拝や行事の中でも礼拝を行い、神さまやいろいろな方から守られ、愛されていることに感謝の思いをもち、祈ることができた。 ○縦割り保育を通して異年齢での活動が豊かになり、いろいろな遊びの場面でお互いに刺激し合い、遊びが発展するようになった。 ○戸外遊びや室内遊びが常に安全な環境で行われるよう毎日点検や子どもの動線を配慮しながら保育環境を整えた。 ○芝生広場に安全で全園児や未就園児も使用可能な総合遊具を設置した。	○聖話を月に2回しか確保できていないので、新年度からは週1回はできるようにし、聖書の話にさらに興味をもたせたい。 ○幼児期終わりまでに育ってほしい「10の姿」を意識し保育計画を立てる。 ○短大保育科と連携をとりながら、学生が気軽な気持ちで子どもたちと関われる機会を作る。（夏まつり・預かり保育・未就園児の会等）																				
Mission 2 経営基盤の安定 （1）ガバナンス強化 ① 公益法人としてのガバナンスの強化 ② 理事長の適切なリーダーシップの発揮 ③ 学長及び校長の適切なリーダーシップの発揮 （2）財政の健全化 ① 学校法人の永続性に鑑みた収入と支出の管理 ② 西南女学院のスケールメリットを活かした学生・生徒・園児の募集活動 ③ 人件費の削減 ④ 外部資金増加の促進 ⑤ 数値目標の設定	○大学法人としての自主的な行動規範として、「ガバナンス・コード」を定め、公表・検証を行った。 ○理事長は、寄附行為に基づき、迅速かつ的確な意思決定にもとづく法人経営を行った。 ○学長は、学校の目的を達成するために、社会や教育に関する状況を把握し、学校運営に責任を負う者として、リーダーシップを発揮して教育研究の成果が最大になるように努めた。 ○校長は、キリスト教教育を推進するために「キリスト教教育オリエンテーション」を継続実施し、教会の主日礼拝出席を奨励した。 ○中期計画（2022-2026）の財政計画の最初の年度 2022 年度の数値達成は実現できなかった。 ○大学及び短期大学部の教育改革のため、学長の下での将来計画検討プロジェクトを設置し、教育組織の変更も視野にいった協議を続けた。 ○中学校・高等学校の生徒募集について学長やアドミッション・オフィサーの助言を受けながら塾対策、学校訪問対策を強化した。 ○短期大学部に3年制コースの導入を検	○学校法人のガバナンスとしての「業務執行と監視・監督の役割の明確化と分離」に資する規則と体制の構築。 ○短期大学部、中学校・高等学校に関する財政計画の達成。 ○大学の定員未充足の学科の収支悪化の防止。 ○学生・生徒の募集体制の強化。	○大学法人としての自主的な行動規範として、「ガバナンス・コード」を定め、公表・検証を行った。 ○理事長は、寄附行為に基づき、迅速かつ的確な意思決定にもとづく法人経営を行った。 ○学長は、学校の目的を達成するために、社会や教育に関する状況を把握し、学校運営に責任を負う者として、リーダーシップを発揮して教育研究の成果が最大になるように努めた。 ○校長は、キリスト教教育を推進するために「キリスト教教育オリエンテーション」を継続実施し、教会の主日礼拝出席を奨励した。 ○中期計画（2022-2026）の財政計画の2年目 2023 年度の数値は達成できなかった。 ○基本金組入前当年度収支差額 (千円) <table><tr><td></td><td>2023 目標</td><td>2023 決算</td><td>2026 目標</td></tr><tr><td>大学</td><td>-118,287</td><td>-204,986</td><td>+175,629</td></tr><tr><td>短大</td><td>-153,163</td><td>-152,592</td><td>+13,428</td></tr><tr><td>高校</td><td>-38,618</td><td>-55,703</td><td>+3,087</td></tr><tr><td>中学</td><td>-58,698</td><td>-52,649</td><td>-21,882</td></tr></table> ・2023 年度の見直しにより、目標学生数とともに設定した単年度の事業活動収支はいずれも目標額を大きく下回った。		2023 目標	2023 決算	2026 目標	大学	-118,287	-204,986	+175,629	短大	-153,163	-152,592	+13,428	高校	-38,618	-55,703	+3,087	中学	-58,698	-52,649	-21,882	○2025(令和 7)年 4 月 1 日施行の改正私立学校法に対応する寄附行為の整備。 ○2023 年度の反省に基づき、校長主導の体制を強化する。
	2023 目標	2023 決算	2026 目標																					
大学	-118,287	-204,986	+175,629																					
短大	-153,163	-152,592	+13,428																					
高校	-38,618	-55,703	+3,087																					
中学	-58,698	-52,649	-21,882																					

計 画	2022 年度		2023 年度																																																								
	状況〔1 年目〕	課 題	状況〔2 年目〕	課 題																																																							
	討した。 ○2023 年度に向け、学生生徒確保数及び人件費削減の計画を修正した。		○大学及び短期大学部では、コンサルタント会社の助言、アドミッション・オフィサーの協力を得ながらの戦略的募集、総合型選抜、一般選抜、転入学・編入学の特別選抜の機会を増やすなど学生確保対策を講じたが、目標とする学生数に達しなかった。 ○学生生徒数の達成状況 <table><tr><td></td><td>目標</td><td>実績</td><td>達成率(%)</td></tr><tr><td>大学</td><td>1283</td><td>1208</td><td>94.2</td></tr><tr><td>短大</td><td>80</td><td>81</td><td>101.0</td></tr><tr><td>高校</td><td>213</td><td>180</td><td>84.5</td></tr><tr><td>中学</td><td>126</td><td>98</td><td>77.8</td></tr></table> ＊目標値は 2023 修正計画、実績は 2023.5.1 人数 ○短期大学部は 2024 年度学生募集に際し長期履修制度を利用した 3 年制コースを設置した。結果、2 年制 17 名、3 年制 40 名。 ○短期大学部 2024 年度目標の学生数は、110 名としたが、2024 年 5 月 1 日の学生数は、90 名で収容定員の 50％を下回ったため 2025 年度以降の学生募集を停止。 ○中学校・高等学校では、アドミッション・オフィサーと広報部教員との対話型研修を重ね、現有する活動のブラッシュアップに努めた。管理職の訪問回数を増やし、対組織間のパイプづくりに努めたが、中学校、高等学校ともに生徒獲得の数値目標には遠く及ばなかった。 入試は、インターネット出願を導入し、受験生の保護者がいかなる時間でも手続きができるようにサービス向上に努めた。高校推薦入試では、進学クラスの推薦要件（評点）を緩和して、更なる受験生の獲得を試みた。		目標	実績	達成率(%)	大学	1283	1208	94.2	短大	80	81	101.0	高校	213	180	84.5	中学	126	98	77.8	○学生生徒数 <table><tr><td></td><td>目標</td><td>実績</td><td>達成率(%)</td></tr><tr><td>大学</td><td>1188</td><td>1108</td><td>93.3</td></tr><tr><td>短大</td><td>110</td><td>90</td><td>81.8</td></tr><tr><td>高校</td><td>194</td><td>153</td><td>78.9</td></tr><tr><td>中学</td><td>129</td><td>83</td><td>64.3</td></tr></table> ＊目標値は 2024 修正計画、実績は 2024.5.1 人数 ○2025 年度目標 <table><tr><td></td><td>目標</td><td>2024 との差異</td></tr><tr><td>大学</td><td>1173</td><td>+65</td></tr><tr><td>短大</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>高校</td><td>179</td><td>+26</td></tr><tr><td>中学</td><td>118</td><td>+35</td></tr></table> ＊目標値は 2025 修正計画、実績は 2024.5.1 人数 ○2023 年度決算の数値から、収支の均衡をとるために必要な学生生徒数は、少なくとも大学+75 名、短大+122 名、高校+39 名、中学+64 名（日本私立学校振興共済事業団損益分岐点分析）		目標	実績	達成率(%)	大学	1188	1108	93.3	短大	110	90	81.8	高校	194	153	78.9	中学	129	83	64.3		目標	2024 との差異	大学	1173	+65	短大	-	-	高校	179	+26	中学	118	+35
	目標	実績	達成率(%)																																																								
大学	1283	1208	94.2																																																								
短大	80	81	101.0																																																								
高校	213	180	84.5																																																								
中学	126	98	77.8																																																								
	目標	実績	達成率(%)																																																								
大学	1188	1108	93.3																																																								
短大	110	90	81.8																																																								
高校	194	153	78.9																																																								
中学	129	83	64.3																																																								
	目標	2024 との差異																																																									
大学	1173	+65																																																									
短大	-	-																																																									
高校	179	+26																																																									
中学	118	+35																																																									
Mission 3 地域社会との共生 西南女学院の資源を活用した地域社会との共生	○大学及び大学短期大学部では、行政、企業、市民と 12 の地域連携プロジェクトを計画・実施した。 ○中学校・高等学校では、コロナ禍において地域貢献活動が低調であったが、小学生対象の「英会話教室」、「理科実験教室」を開催した。 ○創立 100 周年の告知に合わせて、公共交	○西南女学院は自己を高め、夢を実現することができる学校であるということを地域社会に再認識していただくことに努める。	○大学及び短期大学部では、行政、企業、市民と 12 の地域連携プロジェクトを計画・実施した。また、地域連携室では「MOTENA・Sea プロジェクト」をはじめとする 5 つの取組みを行った。 ○中学校・高等学校では、開かれた学校として、小学生向けのサマースクールのプログ	○大学及び短期大学部の学生が活動しやすい環境の整備に努める。 ○更に P R を高めて、西南女学院と地域社会とのつながりを強めていきたい。																																																							

計 画	2022 年度		2023 年度	
	状況〔1 年目〕	課 題	状況〔2 年目〕	課 題
	通機関やマスメディアを利用した広域 広報を実施した。		ラムを増やし、より多くの小学生が参加した。 ○自転車ヘルメット着用率１００％の本校は、地域のモデル校として認定を受け、福岡県警主催の自転車ヘルメット着用推進の啓蒙活動に参加した。 ○様々な大会で優秀な成績を収めた放送部員が、北九州国際映画祭での司会進行の役を担い、市制６０周年記念行事に貢献した。	○西南女学院の生徒が受けた教育の成果を広く、地域へ還元する機会を設けていきたい。